

## パレオパラドキシア瑞浪釜戸標本を活用した瑞浪市化石博物館の教育普及活動

瑞浪市教育委員会 スポーツ文化課

### 1 はじめに

令和4年(2022年)6月5日に、瑞浪市釜戸町の土岐川において「パレオパラドキシア」の骨格化石が発見された。6月10日に発掘を行い、その後約半年をかけて骨格表面の剖出作業(化石のクリーニング)を行い、骨格が地層に埋没した状態を保存する目的で産状レプリカを制作した(図1)。本稿では、パレオパラドキシアの産状レプリカを用いた学校等への出前授業、また「海の学びミュージアムサポート」支援制度(日本財団)を受けて制作したガイドブックの刊行とその活用について報告する。

### 2 パレオパラドキシア瑞浪釜戸標本について

パレオパラドキシアは、のり巻きを束にしたような歯が特徴の「束柱目(そくちゅうもく)」に属する絶滅した海生ほ乳類で、島根県以東の日本各地から化石が発見されている。日本において頭骨を含む骨格はこれまで4体が発見されていたが、今回発見された個体はほぼ完全な頭骨を残し、腰から頭部まで背骨が繋がるなど保存状態が非常に良好である。発見場所から、この個体を「パレオパラドキシア

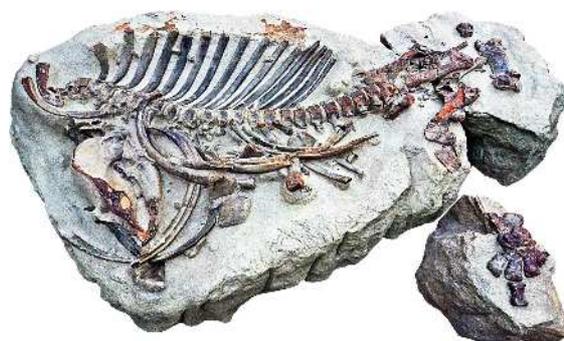


図1. パレオパラドキシア瑞浪釜戸標本の産状レプリカ

瑞浪釜戸標本(以下、瑞浪釜戸標本)」と呼称しており、剖出作業の結果、全身の約70%が残されていることが判明した。瑞浪釜戸標本の剖出や研究などは令和5年(2023年)11月現在も進行中であり、今後調査報告書などでその成果を公表する予定である。

### 3 学校等への授業・講演会における産状レプリカの活用

瑞浪釜戸標本の産状レプリカについて、令和5年度に制作した展示台(出前講座用に3つに分割して輸送可能)を使って瑞浪市化石博物館で展示しているが、要請があった場合には市内学校や公民館、市民講座の会場などに出向き、展示と解説を行った(図2)。令和5年12月までに市内で出前授業や解説を行った機関は下記のとおりである。

★日吉小学校(3年生)、明世小学校(2年生)

○瑞浪北中学校(全学年)、釜戸小学校(6年生)、瑞浪小学校(3年生)、文化センター、釜戸公民館

※★は瑞浪市化石博物館に来館、○は出前授業・講演会

産状レプリカを用いた出前授業については、教頭会や理科部会などで呼びかけを行った。その結果、これまで出前授業を行ったことがない日吉小学校や瑞浪北中学校から出前授業の要請があり、パレオパラドキシアの発見や研究、呼びかけをきっかけに学校との連携がこれまで以上に深まったと思われる。

### 4 「パレオパラドキシアが見たみずなみのうみべ」の刊行と活用

瑞浪釜戸標本の発見や研究成果を広く伝えるため、発見や発掘の経緯、研究成果、瑞浪市やその周辺が海だった頃、日本列島の成り立ちについて解説するガイドブック「パレオパラドキシアが見たみずなみのうみべ」

を令和5年10月に2,000部刊行し、博物館や図書館などの機関および市内の小学6年生、中学生に配布した。また、化石博物館で販売するとともに出前授業や化石博物館が実施する講座等で配布する予定である。

内容については、小学校高学年を主な対象とし、ふるさと学習や理科の副読本となることを目標にしたため、イラストや小見出し(小見出しを読めば大体の内容がわかる)を多用し、また低年齢層も読めるように小学4年生以降に習う漢字についてはルビをふった。また、化石博物館近隣の明世小学校の教員をはじめ教育経験者に内容や文言の監修を受け、学校教育において活用できる内容となるよう留意した。

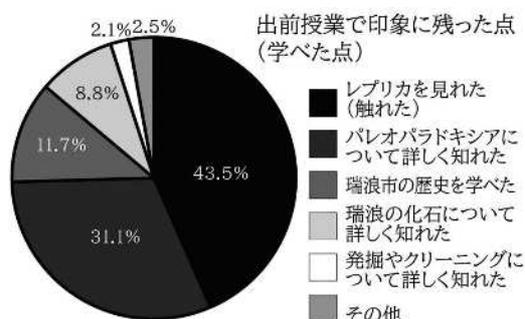


図2. 展示解説の様子 (左)明世小学校2年生来館時、(右)瑞浪北中学校での出前授業

## 5 出前授業のアンケート調査のまとめと子どもたちの反応

11月15日に瑞浪北中学校で実施した出前授業(図2)のアンケート結果(回収数:283件)を図3に示す。本授業ではあらかじめ上述のガイドブックを配布し、全校生徒の前でパレオパラドキシアや瑞浪の自然史を解説した後、クラス単位で産状レプリカを前にしてガイドブックを見ながら特徴や明らかになったことを解説した。

約40%の生徒が、産状レプリカを見られたため説明がわかりやすかった、印象に残ったと回答している。また、ほぼ同じ割合で、解説やガイドブックによりパレオパラドキシアや瑞浪市の自然や歴史を学べたと回答しており、ガイドブックの使用により学習効果も高まったと考えられる。このように、解説に産状レプリカやガイドブックを用いることは、パレオパラドキシアや瑞浪の自然史に対する親しみや理解度を高める効果があると思われる。



自由意見  
 ・文字や写真だけではなくレプリカを使った説明がわかりやすかった。  
 ・レプリカを触りながら説明が聞けてより深く知ることができた。  
 ・ガイドブックとレプリカの両方を見ながら話を聞いたので理解が深まった。  
 ・サメの歯やフジツボを見て瑞浪は海だったことが分かった。

図3. アンケート結果

## 6 おわりに

瑞浪釜戸標本に関する研究や普及活動などの一連の事業は現在も実施中で、令和6年度には「清流の国ぎふ文化祭2024」での標本展示や博物館常設展示室の改修による復元骨格の展示を計画している。地域の貴重な自然資料を保存し、後世に伝えていくためにも子どもたちを中心に今後も学びの場を提供したい。